

<2025年2月1日>

カナダとメキシコに対する関税報道が今週の原油相場を支配しました。金曜日の動きから判断すると関税賦課や高税率の報道は原油価格上昇に、賦課延期や低率化報道は下落につながるようです。

石油以外の関税一般については経済への悪影響懸念から下落圧力です。米国の原油在庫増加は価格下落につながりました。wti とブレンドの価格差も広がりました。

ロシアは制裁強化を製品輸出増加で凌おうとしています。これが上手くいくかどうか。ウクライナが製油所攻撃する可能性もあるし。制裁によるロシア原油輸出が実際に減るのはこれからですが、中印のスポット原油手配で中東産にプレミアムがついておりロシアの製品輸出増加が失敗すると石油市況への影響は大きくなります。

トランプの3期目に関する発言が報道されました。独裁者や独裁的政治家と仲のいい彼は羨ましいのでしょう。また、退任後に逮捕拘束の恐れを感じているのかもしれない。

ガザからのパレスチナ人退去トランプ提案はそれを望むネタニヤフでも時期尚早の発言と思っているでしょう。極右閣僚は歓迎声明していますが。

<2025年2月8日>

ガザ停戦合意ではトランプがイスラエル説得に貢献しバイデンがハマス説得に貢献したが両者の考えの違いが今後の火種であるという趣旨のことを週報で述べました。前国務長官が退任会見で述べたガザの将来構想とトランプが述べている米国の所有管理は天と地の違いがあります。イスラエル市民の声にもありますがこの構想は停戦第二段階の交渉に影響するのは必至でネタニヤフが自国民人質解放を優先していないことが露呈しました。ネタニヤフはハマスの暴発を期待しているのでしょう。

なお、週報ではトランプがガザ所有を言い出す可能性も指摘していました。ロイターが後だしジャンケン的な解説記事を配信しています。

原油相場はトランプの価格引き下げ意欲とカナダメキシコ関税賦課延期により原油輸入への影響が緩和したことおよび中国との関税合戦による景気や石油需要への懸念が影響し今週も下落しました。バイデンのロシア制裁強化によって上昇した分のほとんどが消えましたが、サウジがOPSを引き上げた通り中印のロシア大体原油探して現物の原油取引はタイト感があります。ロシアが製品輸出で凌ぐかトランプがロシア制裁を緩和しないと上昇圧力は残ります。もっともその場合はOPEC+（と言うよりOPEC）が生産増の可能性が強まり土チャラの可能性もありますが。

インドの新年度財政予算が発表されました。インドでは前年度踏襲という考え方がほとんどなく毎年度イチから積み上げるという印象が強いです。税率の見直しも頻繁に行われ外資が投資する上では最も注意すべき点です。政府が過半の株式を有する上場会社の年度予算も同時に発表され政府が強く管理している上場会社への投資も要注意です。SS 小売価格も政府意向に影響され、SS 軒数の95%を占める政府系3社の小売価格は原油価格の上下に係わらずここ数年はほとんど変化していません。民間は原油価格を考慮するのでSS 販売シェアは変動し輸出で販売数量を調整しています。

<2025年2月15日>

トランプのFOXインタビューなどでの発言は様々な物議をかもししています。特に酷い発言および政策はウクライナは全領土取り戻せないだろう

⇒口がすべった？ 認知症か？

2月15日までにガザ人質全員解放しなければ「地獄見る」

⇒第一段階合意内容を全く無視、認知症か？ イスラエルが無視（第一段階合意を重視）しており大ごとにならなさそうだがイスラエル人が危惧していた人質解放遅れをもたらす恐れがあった

ガザ所有は米国の権限で行う

⇒国内法と国際法の区別がつかない。認知症か？

トランプはガザで不動産投資する

⇒国策と個人投資を混同している。認知症か？

鉄鋼アルミ一律25%関税（石破訪米は何だったのか・・・）

⇒これは計算づくかもしれない。

またトラを最も望んでいるにはプーチンとネタニヤフと一昨年からのこの週報で何度も何度も述べてきました。それが正しかったことをトランプの最近の言動が照明しています。

ネタニヤフはハマスの暴発を期待しているのでしょうか、と前回述べましたがハマスは暴発せず人質解放継続と発表しました。人質解放と交換での集塵解放は支持率が落ちたハマスにとって支持率回復の唯一の成果なのでここは自重したのでしょうか。イスラエル側の反応はトランプの全員解放要求をやんわりと否定しておりイスラエル側にも人質解放世論を配慮する必要があるのでしょうか。解放リストに載っている家族の心情を考えれば停戦合意第一弾での開放は国内世論対策で必須なのであろう。極右は無視した発言していますが。

原油価格は相変わらずトランプ政権の言動に左右されています。ロシア制裁が緩和されないと価格上昇圧力が残ると以前述べましたが月火はそのとおり上昇しました。水曜の米露首脳電話会談でロシアに領土を譲歩したかのようなトランプ発言が報じられ価格は反転下落です。金曜は米財務長官のイラン輸出大幅削減発言が出て一時上昇しましたが具体性がなく実行への疑問と実行しても OPEC の供給余力が注目され下落に転じました。OPEC は価格下落も価格上昇も抑えているようです。

<2025年2月22日>

ゼレンスキー大統領を独裁者と呼んだり自身を国王に模したり今週もトランプ節炸裂ですが原油価格に影響する言動はなかったようです。

インドではテスラ社進出が現実味を帯びてきました。印首相とマスク氏の面談報道で触れられてなかったのが当面無割そうと前回の週報で述べましたが大外れでした。ちなみにトランプは批判していますが彼の関税政策が進出を後押ししています。

ガザでの人質囚人交換解放停戦はなんとか継続しているようですがネタニヤフ首相が間違い遺体返還を大問題化したそうので要注意です。

ヨルダン川西岸地区での攻撃はガザ停戦とは逆に激しさを増しています。イスラエルは請願についてもパレスチナ人追い出しに舵を切ったと判断します。トランプのガザに関する言動がイスラエルの自信を深めたのでしょ